

2020年度後期 講義概要

授業科目名	診断学序論
主担当教員名	伊藤俊之
配当学年 等	第3学年
学習目標	<p>質の高い医療は的確な診断がなされてこそ成り立つ。 ここではまず、診断を行うにあたっての基礎的能力を養うことを目標とする。</p> <p>【医療面接】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。</li> <li>②医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。</li> <li>③病歴（主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー）を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。</li> <li>④診察時に患者に適切な体位（立位、座位、半座位、臥位、砕石位）を説明できる。</li> <li>⑤診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。</li> </ol> <p>【全身状態とバイタルサイン】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①身長・体重を測定し、body mass index &lt;BMI&gt;の算出、栄養状態を評価できる。</li> <li>②上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。</li> <li>③両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。</li> <li>④呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。</li> <li>⑤腋窩で体温を測定できる。</li> <li>⑥下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定（触診法）、大腿の血圧測定（聴診法）を実施できる。</li> <li>⑦全身の外観（体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声）を評価できる。</li> </ol> <p>【問題志向型システムと臨床診断推論】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①基本的診療知識に基づき、症例に関する情報を収集・分析できる。</li> <li>②得られた情報を基に、その症例の問題点を抽出できる。</li> <li>③病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。</li> <li>④主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。</li> </ol> <p>【根拠に基づいた医療&lt;EBM&gt;】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①根拠に基づいた医療&lt;EBM&gt;の5つのステップを列挙できる。</li> <li>②現場で遭遇した臨床上的の問題に関し、PICO（PECO）を用いた問題の定式化ができる。</li> <li>③研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験）、システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）を概説できる。</li> <li>④データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。</li> <li>⑤得られた情報の批判的吟味ができる。</li> <li>⑥診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。</li> <li>⑦診療ガイドラインの推奨の強さについて違いを述べることができる。</li> </ol> <p>【診療情報と諸証明書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①診療録（カルテ）に関する基本的な知識（診療録の管理と保存（電子カルテを含む）、診療録の内容、診療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティ、問題志向型医療記録&lt;POMR&gt;、主観的所見、客観的所見、評価、計画（subjective, objective, assessment, plan &lt;SOAP&gt;）を説明でき、実際に作成できる。</li> </ol> <p>【診療録（カルテ）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録&lt;POMR&gt;を作成できる。</li> <li>②診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画&lt;SOAP&gt;で記載できる。</li> <li>③症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。</li> <li>④プライバシー保護とセキュリティに充分配慮できる。</li> </ol> <p>必ずしもこの順番に従って講義するものではないが、全体で「医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）」の到達目標を達成できるように講義を行う。</p>
授業概要	診断学の基礎、患者さんへのアプローチ法、医療面接の基本、基本的身体所見の取り方や診療録（カルテ）の記載法等について学ぶ。
授業内容	病歴の聴取、身体診察、診断のプロセス、EBMに基づく診断の考え方とEBMの実践、診療録の書き方や医療面接法について講義し、一部演習やロールプレイを行う。

授業計画表

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	課題 有・無	授業形式 (原則、対面。)
令和 2年10月08日(木)	4 時限	上野 哲	講義	診断の流れと病歴聴取	有	対面
令和 2年10月08日(木)	5 時限	上野 哲	講義、実習	身体所見、血圧計、聴診などの実習を含む	有	対面
令和 2年10月15日(木)	4 時限	西山 順滋	Group work	医療面接(1)	有	対面
令和 2年10月15日(木)	5 時限	西山 順滋	Group work	医療面接(2)	有	対面
令和 2年10月29日(木)	5 時限	杉本 俊郎	Group work	EBMと統計的手法	有	対面
令和 2年11月2日(月)	1 時限	藤田 征弘	講義	カルテの書き方	有	対面
令和 2年11月19日(木)	4 時限	畔田 明子	Group work	診断の実際(1)	有	対面
令和 2年11月19日(木)	5 時限	畔田 明子	Group work	診断の実際(2)	有	対面
令和 2年11月25日(水)	5 時限	後藤 道子	Group work	コミュニケーションスキル・医療面接実習	有	対面
令和2年12月5日(土)～6日(日)			OSCE	OSCE模擬患者役	有	対面
授業形式・ 視聴覚機器の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義を主とし、時に演習やロールプレイを含めた実習を行う。</li> <li>・ 講義資料、課題やレポート等はWebclassを使用する。</li> </ul>					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席は各講義毎で設定される課題等の提出をもって出席とみなすこととする。</li> <li>・ 70%以上の出席をもって合格とする。</li> <li>・ OSCE(2020年12月5日(土)～6日(日))でのレポート提出を必須とする。なお、レポート提出日時(別示)に遅れた場合、理由の如何を問わず受理しない。</li> </ul>					
教科書・ 参考文献	<p>電子カルテ時代のPOS—患者指向の連携医療を推進するために、医学書院 「型」が身につくカルテの書き方、医学書院 はじめての医療面接—コミュニケーション技法とその学び方、医学書院 メディカルインタビュー 第2版、MEDSi よくわかる医療面接と模擬患者、名古屋大学出版会 ベイツ診察法 第2版、MEDSi ベイツ診察法ポケットガイド 第3版、MEDSi サパイラ 身体診察のアートとサイエンス 原書第4版、医学書院 マクギーの身体診断学、診断と治療社 内科診断学、医学書院 内科診断学、南江堂 ジェネラリストのための内科診断リファレンス: エビデンスに基づく究極の診断学をめざして、医学書院</p>					
学生への メッセージ	診断学の基礎を学ぼう。					